

2378
279
13





柳亭種彦序
香林樓國貞外題

怪談
香林樓

遠行
2378
279

怪談

春

雛

鳥

林屋正藏作
五雲子貞秀画

全四冊

上乃卷

日本橋坂本町 福川堂版



戊戌
孟春
新刻

一



吉原の山口から行當でが秋葉山芝場町の川只軒並びふ
成田山去の長きの八丁花街の園て高尾の徳と板元すめられ
早のまふ林屋の筆の書き内務の世話を離るぬ作者の突
出た文別ぬ八文字屋自笑が口調からわらわをまて辺頃
全盛の人の似ぐかもをふが自菊初音空船とおのんの名ふ
何のころの名香ふるとて事と發一虎とおま化物をあへた
帯で遠染孔雀深紫唱しそ消くゆく仁本むりて大空むきま
あられと貞と秀と二人りお嬢を養育者めく繪を因めて一組の
草紙とあり事の出縁をあまれまて柳の真出口は祀てかゝるん

天保戊戌春

種彦





宝徳之頃之
歌舞妓役者
袖崎
文弥



舞子
花咲歌門

さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ

おのれもさういふことばをいふのは
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ

けのき
ちのき
ちのき



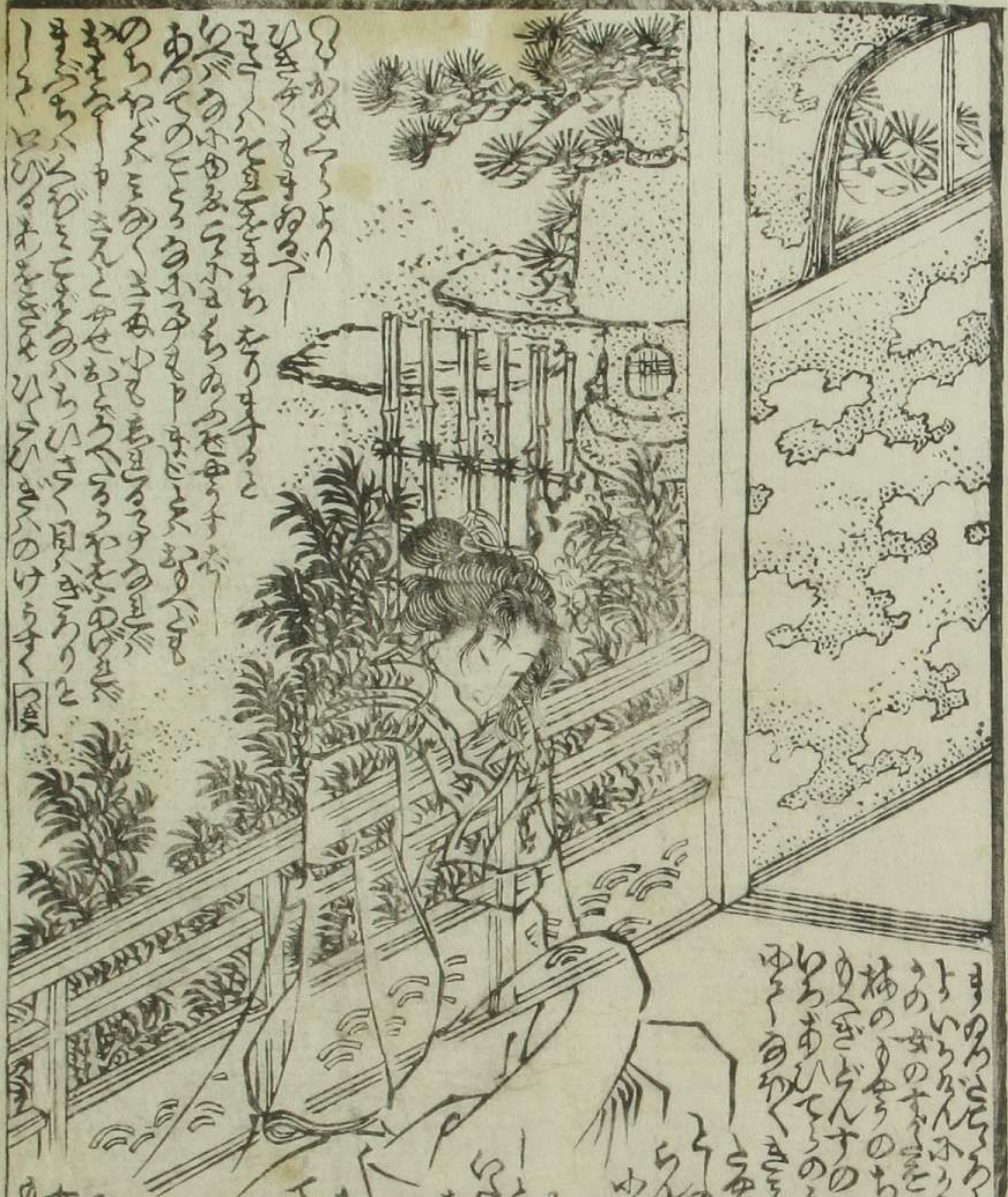
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ

おのれもさういふことばをいふのは
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ
さういふことばをいふのはさういふ
めいしうをいふはさういふ

い
の
き

い
の
き





On the veranda
The woman sits
And gazes out
At the garden
Where the pine tree
And the bamboo fence
Are seen
The scene is peaceful
And the woman
Is in a state of
Contemplation

The woman sits
On the veranda
And gazes out
At the garden
Where the pine tree
And the bamboo fence
Are seen
The scene is peaceful
And the woman
Is in a state of
Contemplation



The monk sits
On the veranda
And speaks to
The woman
Who is seated
Beside him
The scene is quiet
And the monk
Is in a state of
Calmness

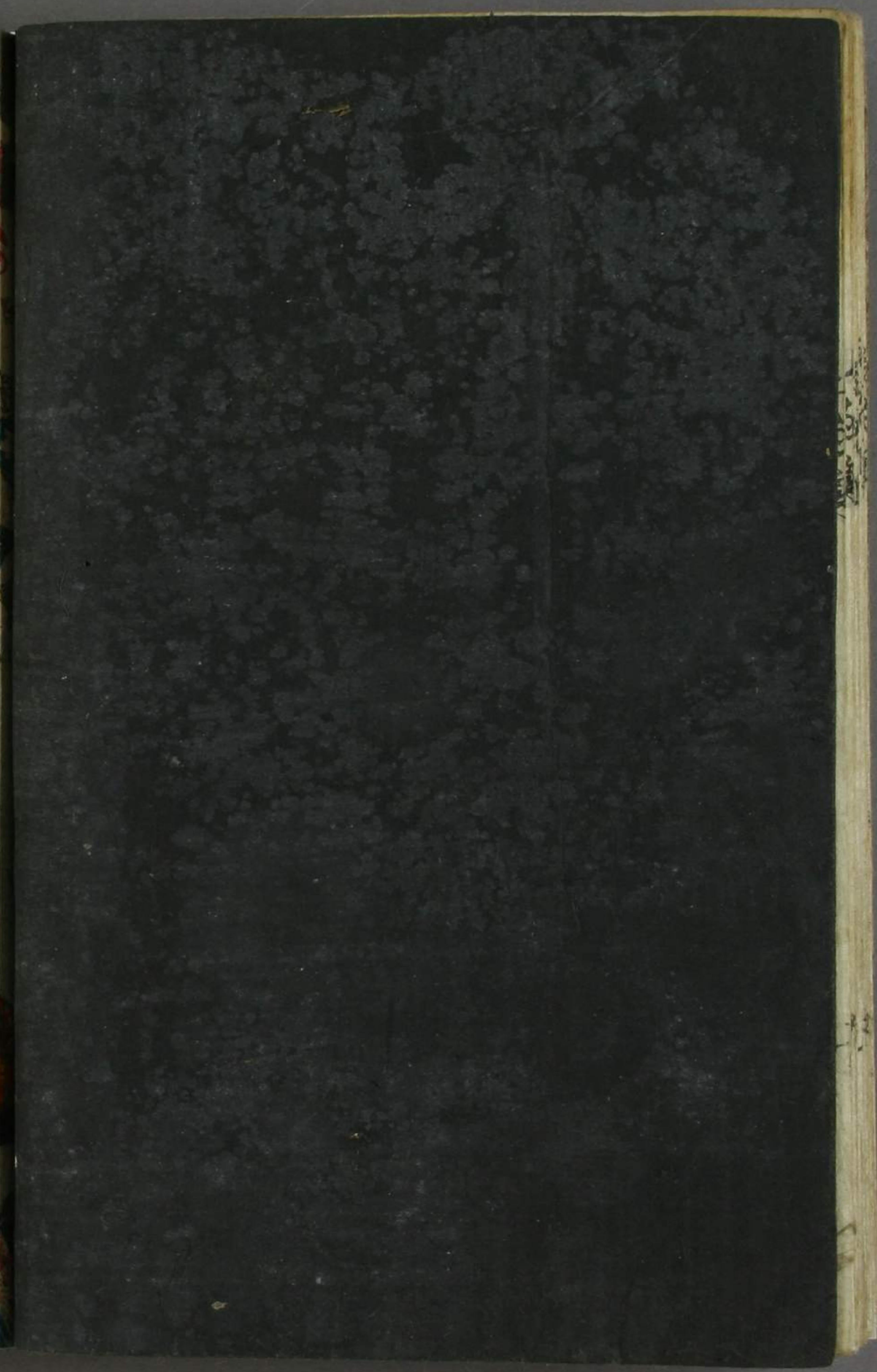
The monk sits
On the veranda
And speaks to
The woman
Who is seated
Beside him
The scene is quiet
And the monk
Is in a state of
Calmness

五雲亭貞秀画
林屋正藏作

春
鳥籠

全川版

下



怪談春雛島

林屋正藏作 全四冊

五雲亭貞秀画 下三卷

天保九歲 戊辰發兌 福川堂販



三 [Vertical handwritten text in a column, including the character '三' in a box at the top]

Vertical handwritten text on the left margin of the right page.

Vertical handwritten text on the left margin of the right page.



しんせき

十二



しんせき



下あひやちあか
下あひやちあか
下あひやちあか

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ



あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ

あはれはあはれ
あはれはあはれ
あはれはあはれ



○三月の夜、三つ峠の松林に、
石の塚の傍に、女がひざまずいて
涙を流して祈る。其の傍に、
提灯を手にした男が立つ。

○又や
二月の夜、
三つ峠の
松林に、
石の塚の
傍に、
女がひざまずいて
涙を流して
祈る。

○三月の夜、
三つ峠の松林に、
石の塚の傍に、
女がひざまずいて
涙を流して
祈る。



○三月の夜、三つ峠の松林に、
石の塚の傍に、女がひざまずいて
涙を流して祈る。其の傍に、
提灯を手にした男が立つ。

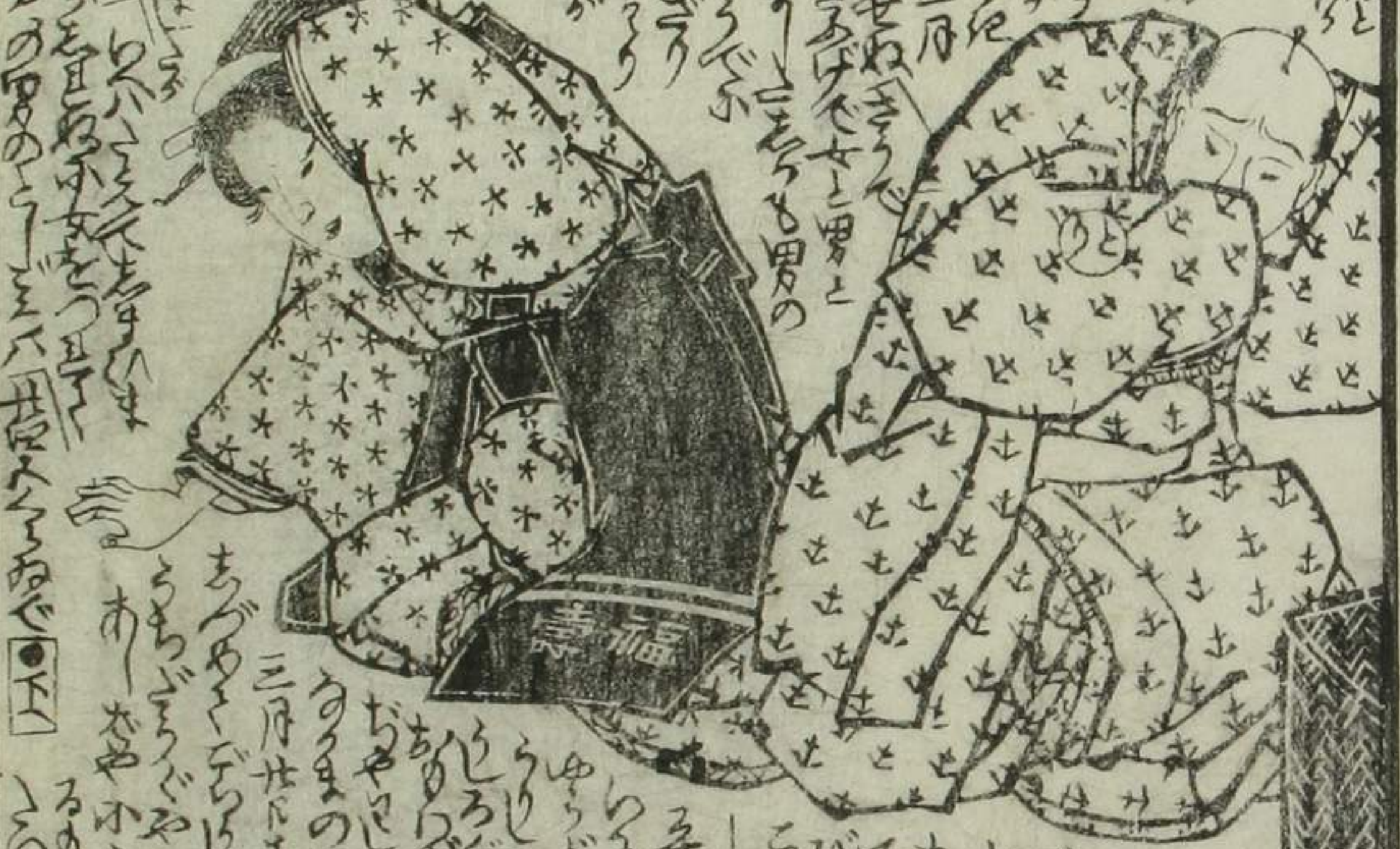
○三月の夜、三つ峠の松林に、
石の塚の傍に、女がひざまずいて
涙を流して祈る。其の傍に、
提灯を手にした男が立つ。

○三月の夜、
三つ峠の松林に、
石の塚の傍に、
女がひざまずいて
涙を流して
祈る。

平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに...



平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに...



平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに... 平次郎のゆゑに...

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the right page.

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Small vertical text on the left margin of the left page.

Small vertical text on the left margin of the left page.

Small vertical text on the right margin of the right page.

Small vertical text on the right margin of the right page.



Handwritten Japanese text, likely a haikai poem, located below the illustration of the woman looking out the window.

Handwritten text, possibly a page or chapter marker, located to the left of the illustration.



Handwritten Japanese text, likely a haikai poem, located above the illustration of the two women.

Handwritten Japanese text, likely a haikai poem, located below the illustration of the two women.

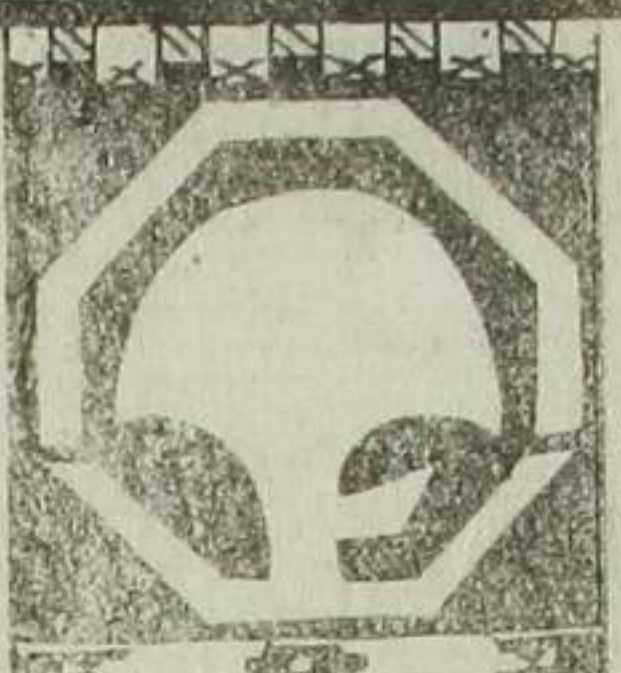
Small square seal or signature located at the bottom left of the page.



成春
正蔵



林屋
正蔵
作



五雲亭貞秀画

家ちの出る妙薬

一廻り十四貼
代三百五十文

○産後七十五日の内小用ひはバ乳出さるる妙薬○まろくろふ即廿四
の内小用ひはバ乳出さるる積合○日数七十五日迄は小用ひは
も功のうろを一七三廻り活用ひは成りう入乳出さるる法止
る成り乳をち毎々小く活用ひ
但し三廻り活用ひ乳出さるる夜乳出さるるためは乳を
小夜中お沸かす是と数人たりし中六くき能書小有

御ちの粉

一袋 一袋
四十八銅 三十二銅

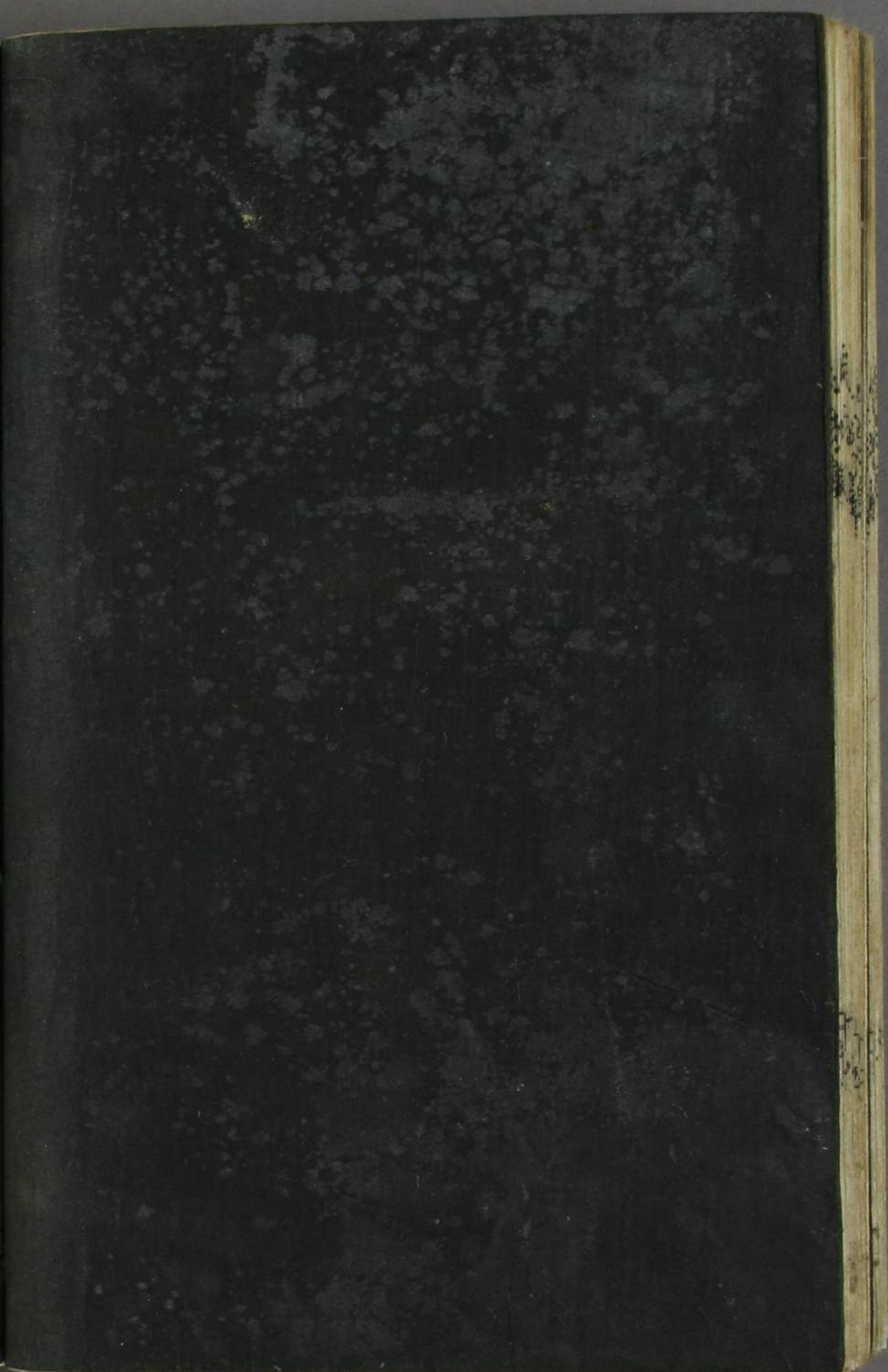
一袋一ち不足の小児小用ひ成長
事事を手之用ひやう八上鍋の粉水
とき煮て其まゝお沸かすは
のまゝ小児のまゝお沸かすは

仙女香美香
南信言町三十目
坂本氏製

精製所

江戸日本橋坂本所壹丁目
繪草紙問屋

川口宇兵衛



袖崎文弥 そでざきぶんや
 松嶋梅吉 まつしまうりきち
怪談春雛鳥
くわいたんはるのひなどり

二編上之卷

林屋正藏戯作
 香蝶櫻國貞画
 福川堂梓

天保十一庚子歲孟陽發版

物の本の怪き。唐山小搜神記有り。怪神録あるが中ゆも日本の
 正保の昔々異国より来舶剪燈新話の牡丹燈大通る色情在
 る怪談深い趣向を淺井了意が翻譯たる御伽婢子夫妻を
 元禄初の頃今から觀ると百有餘年近いといへても文化元甲
 子年の夏狂言河原崎中て音羽屋が初て芝居で勤るれど
 笑話の披講仁わては僕風本思ひ附暗闇燭臺燒耐火
 あつて元祖と書看久しく仕當て三拾年来そ版元附込で二
 編書て暮の鐘今の時好逢魔が時ふあやくと勸られ初編を
 て亦今年二編を書けと望まてこみく天狗の仲間人家業渡世の咄の
 間七本相の木の本也。此物語を書者。林屋の正藏坊也。
 天保十一庚子年陽春發版

維

美艷仙女香 京橋みづき
黒油美香 日中橋
ありありの 坂本氏
仙雲はみらるる

○人の形おもしろ
そなたもえんが
あつたかき
ののたまかき
さうさくちの
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の
おれいそれ人の





東都咄の作者林屋正藏

………



………

聖笑話 松嶋梅吉
俗説紙の男雛
神功皇后三韓退治の
時の御像亦女雛
應神天皇
誕生
武内の
大臣の誕
子と合へると



巻を抱き
像ると云人
有るが左様でも
有るか但
袖

松嶋團平



あまのこころを
おぼゆるは
なまのこころを
おぼゆるは
あまのこころを
おぼゆるは

いりあたるの
城本屋の従
竹本筆大先

外面如善菩薩
内心如夜叉

袖崎文弥

結髪櫛
の於才

変名
白泉
の駒
吉



あまのこころを
おぼゆるは
なまのこころを
おぼゆるは
あまのこころを
おぼゆるは



深尾清十郎

但馬屋の娘
於夏



文殊世とある
 こまねとある
 文殊世とある
 こまねとある
 文殊世とある
 こまねとある
 文殊世とある
 こまねとある
 文殊世とある
 こまねとある
 文殊世とある
 こまねとある



人生八歳則自王公以下至庶人の子男比自
 入小学ト
 八歳則自王公以下至庶人の子男比自
 入小学ト
 八歳則自王公以下至庶人の子男比自
 入小学ト

ねんがうらけまゝ
 うぐひつづのまゝ
 そとでうらけまゝ
 ねんがうらけまゝ
 うぐひつづのまゝ
 そとでうらけまゝ

文殊世とある

こまねとある

下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが



下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが

下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが



下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが
 下の十の九のものが
 上の十の九のものが



五

五

何れか一人ははなれりて
 世の事や人の事や
 何れもわが事なり
 何れもわが事なり
 何れもわが事なり

此の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり

人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり



何れか一人ははなれりて
 世の事や人の事や
 何れもわが事なり
 何れもわが事なり
 何れもわが事なり

此の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり

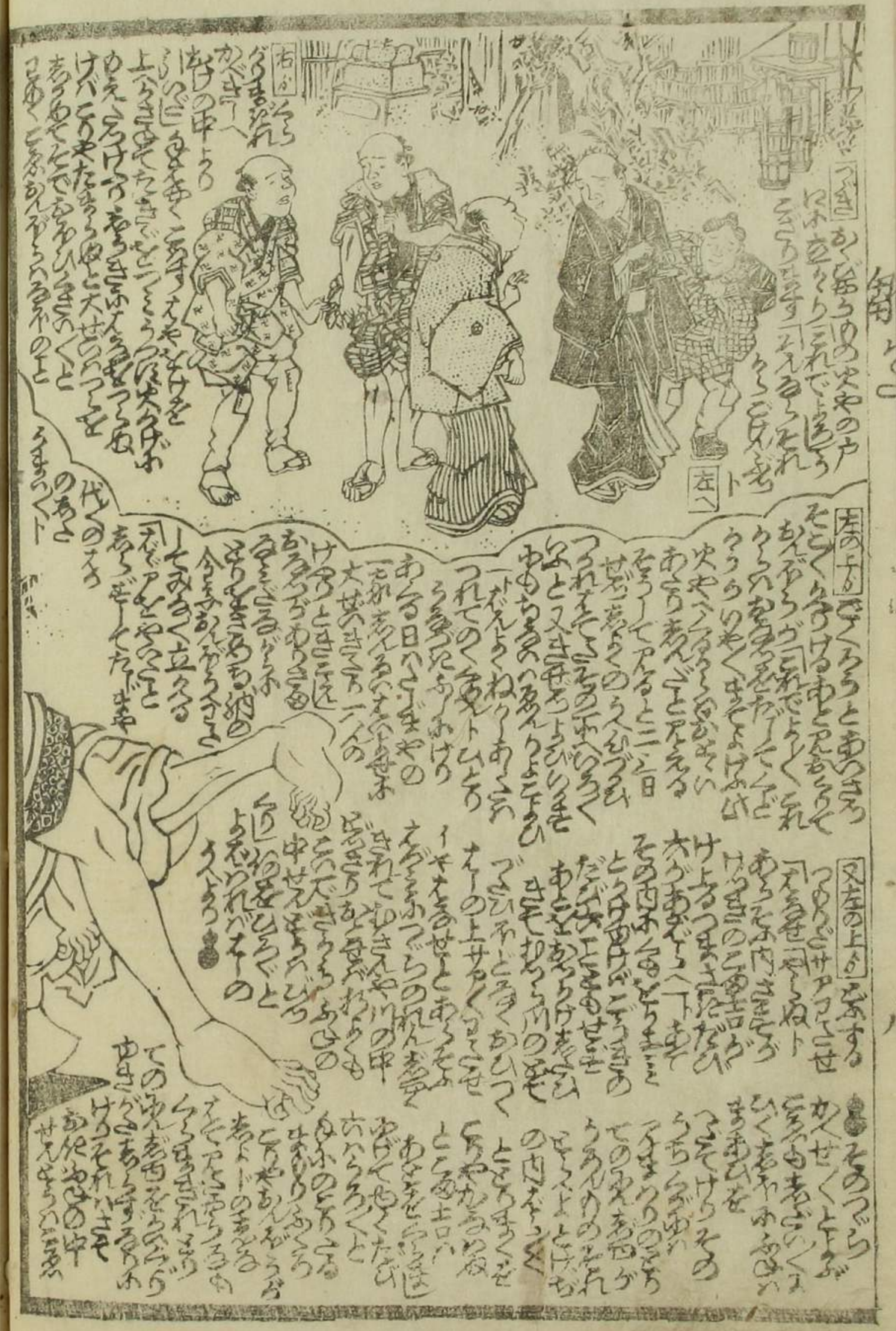
人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり
 人の世の事は人の世の事なり





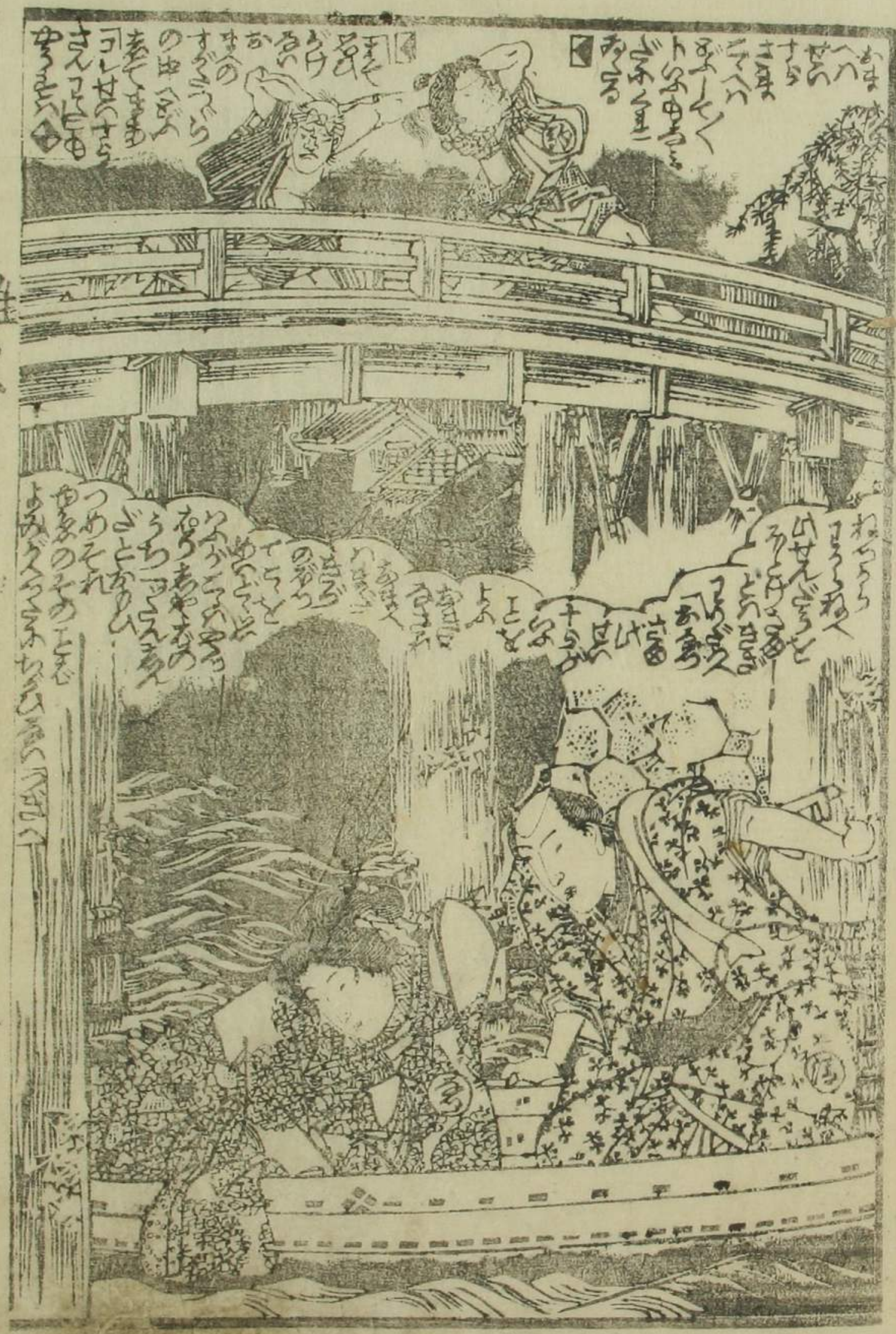
右の中へ
 左の中へ
 内もりのあはれ
 こゝろもこれぞ
 ...
 ...
 ...

又右の上へ
 ...
 ...
 ...



右の中へ
 ...
 ...
 ...

又左の上へ
 ...
 ...
 ...



貞画正蔵作

貞画正蔵作

ついでに... 貞画正蔵作... 貞画正蔵作... 貞画正蔵作...



貞画正蔵作... 貞画正蔵作... 貞画正蔵作...

貞画正蔵作... 貞画正蔵作... 貞画正蔵作... 貞画正蔵作...



貞画正蔵作... 貞画正蔵作...



香蝶樓國貞画
林屋正藏作

怪談
春雛鳥
後編

下



林屋正藏作

庚子春
新刻

春雛鳥編下巻

香蝶樓國貞画 川口版





此の如くは、昔の風習をしのぎ、
 女は、華やかな装いで、
 男は、落ち着いた姿で、
 共に楽しむ様子。

この物語は、昔の風習をしのぎ、
 女は、華やかな装いで、
 男は、落ち着いた姿で、
 共に楽しむ様子。



此の如くは、昔の風習をしのぎ、
 女は、華やかな装いで、
 男は、落ち着いた姿で、
 共に楽しむ様子。

この物語は、昔の風習をしのぎ、
 女は、華やかな装いで、
 男は、落ち着いた姿で、
 共に楽しむ様子。

A black and white woodblock illustration on the left page. A woman stands in the center, wearing a dark kimono with a circular emblem on the chest and a patterned skirt. She is looking towards the right. In the background, there are bamboo fences and a thatched roof. To her right, another figure is seated on the ground, looking towards the standing woman. The entire scene is surrounded by vertical columns of handwritten Japanese text. The text is densely packed and follows the contours of the illustration. At the bottom left, there are some smaller characters and a signature. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.A black and white woodblock illustration on the right page. A woman stands on the left, holding a sword upright in her right hand. She wears a light-colored kimono with a patterned sash. In the center, another figure is seated on the ground, looking up at the woman. The background shows a field with bamboo fences and a thatched roof. The illustration is surrounded by vertical columns of handwritten Japanese text. At the bottom right, there is a large, stylized character that appears to be '福' (Fortune). The overall style is consistent with the left page, showing a scene of interaction between two figures in a rural setting.



